

書評・新刊紹介

小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田敬五 著

小林弘珪藻図鑑 第1巻

H. Kobayasi's Atlas of Japanese Diatoms based on electron microscopy

発刊までのいきさつ

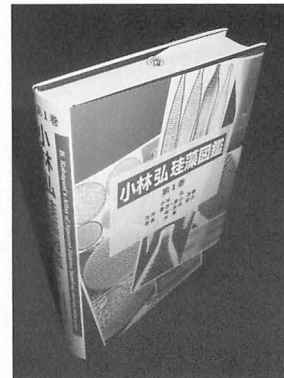
小林 弘（ひろむ）先生といえば珪藻の研究を、そして珪藻の分類といえば小林 弘先生をまず思い浮かべる藻類学会会員が多いに違いない。

日本における最初の国際珪藻学会会議が1996年東京で開かれるに際して、国際珪藻学会諮問委員会は満場一致で小林弘先生を大会会長に選出した。小林先生の人柄や研究業績がこの分野でいかに高い評価を受けていたかを物語るものといえよう。選出された先生は会議を成功させるべく、日夜準備に心血を注がれ、その熱心さはひと通りでなく、ご苦勞は並大抵のものではなかったと聞いている。やがて準備は着々と進み、大会会長としての英語による大会開催のスピーチはあと20日ほどを残すのみとなった時に異変は起こった。先生が定年退官と時を同じくして設立した「東京珪藻研究所」の一室で、誰にも看取られることなく先生は眠るように生涯を閉じてしまったのである。まさに学問に殉じた壮絶な死であったといえよう。

この頃、小林先生は本書の出版元である内田老鶴圃が刊行した「日本淡水藻図鑑」（1977）の姉妹篇とでもいうべき珪藻図鑑の写真図版の作成にも鋭意力を注いでおられた。小林先生の奥様（玲子さん）や門下生たちによると、逝去されたとき、既に約330分類群の図版約400枚と珪藻用語の解説が完成し、いよいよ本文作成に入る段階にあったという。

小林先生の研究を良く理解しておられた小林夫人は、残された資料を中心に是非とも「珪藻図鑑」を上梓したいと強く希望され、内田老鶴圃社長の内田 悟氏も、先の「日本淡水藻図鑑」に珪藻類を欠いたこともあって、小林夫人の申し出にはもろ手を上げて賛意を表され、「珪藻研究所」に残された資料を中心に小林先生が果たし得なかつたご遺志を実現する「小林弘珪藻図鑑」作成プロジェクトがこうして発足をした。そして、写真図版の整理や製作と原稿執筆には、門下生の出井雅彦、長田敬五、南雲 保、真山茂樹（五十音順）の4博士が努力することに決まった。

話は遡るが、この「珪藻図鑑」は初めは前述の「日本淡水藻図鑑」の1章に含まれる予定であったが、600ページを超す大部の見直しから編集方針を変更し、単独出版になったという。この方針を受け継いだ小林先生が当初目指した珪藻図鑑は、光学顕微鏡写真を列挙したもので、1980年代前半の出版が目標であった。しかし、読者の誰もが知ってのように、80年代になると電子顕微鏡が盛んに用いられるようになり、分類の指標となる殻の構造や模様に関する情報が格段に増加するようになってきた。近代珪藻分類学の傾向をいち早く察知した小林先生は、主体を光学顕微鏡写真から電子顕微鏡写真とする図鑑に切り替え、新たな図鑑作成にとりかかった。こうした図鑑作りの作業に力を注ぐため、小林先生は勤務地近くのマンションに研究専用



内田老鶴圃, B5
判上製, 総頁
596頁, 2006
年11月, 定価
35700円, ISBN
4-7536-4046-9

の居を構え、膨大な文献資料と写真資料を蓄積し、国際会議の準備と平行して珪藻研究と図鑑作りに没頭していたのであった。

さて、小林夫人より、東京珪藻研究所は、そのままの形で残し、残された文献も資料もすべてどうぞ自由にとのお言葉であったが、どのような形の図鑑にするかなどについての具体的な先生の考えや本文は書き残されていなかった。今回刊行の本のような内容の骨子を定めるために、遠く離れた自宅から4人は休日を利用し、あるいは泊まりがけで、幾度も東京珪藻研究所へ足を運び、またときには一堂に会し、先生が残されたカードや資料をめくりながら、現在皆様のお手許にある内容の本にまとめたという。図版の整理や内容の骨子が決まってからは、作業は順調となり、内容も量を増し、当初の予定を遙かに凌ぐ大冊の見通しとなった。

今回の刊行物を第1巻とし、著者等は近く第2巻を刊行予定であるという。

本珪藻図鑑の特色

1. 日本で初めての珪藻学の分類図鑑である。
2. すべての分類群について光学顕微鏡写真と電子顕微鏡写真を付した。この点は世界に例を見ない写真図鑑である。
3. 珪藻殻の構造の詳細について解説用語集を用意した。ここに用いた写真はすべて著者等がオリジナルに作成したものである。
4. 珪藻用語の英語・日本語対照表を作成した。日本語訳の定着を期待したい。
5. 分子系統解析の結果に基づいて、最新の分類体系表を掲載した。
6. 1分類群が1ページにまとめられ、原記載、Basionymなどを付し、殻に関する特徴を項目ごとに解説し、さらに有性生殖や汚濁耐性等の解説も付けた。また、最後に類似種等との区別点等の特記事項をノートとして付記した。
7. 図版は和文解説の後にまとめられ、1分類群ごとに見開きになっている。右ページに図版、左ページに英文の解説がある。
8. 珪藻では属の和名は一般的ではなかったが、小林はほと